



「鬼は外」鬼はみんな出してやるぞ！！(詳細はP2)

やすらぎ

題字：佐藤喜次さん筆（特養住民）

主な内容

かたくりの園利用者の季節の表情	P 2
やすらぎ会事例研究発表会	P 3
ぶなの園の感染症予防	P 3
特集「中堅よ理想を語ろう」最終回	P 4
あの場所、あの人、思い出せば懐かしくもあるが、希でもある	P 5
地域に対する責任をもって勉強して参ります	P 6
うちのおばあさんおじいさんはえらい！	P 7
あたたかい善意を頂戴し厚くお礼申し上げます	P 8

No. 43

2009 **春** 号

平成21年3月25日発行

今年もチームワークの結晶を輝かせました！

第10回やすらぎ会事例研究発表会

そして、よりよい暮らしのために

特別賞	奮闘賞
 <p>社会福祉法人やすらぎ会 事例研究発表会</p>	 <p>社会福祉法人やすらぎ会 事例研究発表会</p>
特養3丁目担当グループ	特養1・2丁目担当 「男女7人冬物語」チーム
テーマ：口から食べる喜び	テーマ：「気づき」 ゆとりの時間を持つための取り組み
口から食べることができなくなった95歳のおばあさんに、実は口から食べる意欲があることに気づき、それを叶えるまでの介護の記録の発表。医師、栄養士など他の専門職種とのチームワークが評価された。	効率的介護を求められる現状では、特養で暮らす人達の表情が乏しいことに気づき、笑顔に戻すために、ふれあう時間を確保した取り組みを発表。効率的と思っていた日課の隙間に気づき、工夫を重ねたことが評価された。



もちろん厳しく公正な審査があります

み上げるだけでなく、考案した介護道具の実演、介護用品を職員が使った実感を発表、感動的なBGMを流す、研究対象者の歌声を流す、暮らしぶりを映像で見せるなど、現場の臨場感と生きる力をより強く伝えようと工夫してきました。ただ、発表方法にこりすぎて研究が浅くなることもあったようです。

テーマは無限です。皆さんのより良い暮らしのための研究を続けます。

人の暮らしを対象とする私たちの仕事は、日々の「勉強」研究がとても重要で、さらに「発表」は研究の意欲を高める効果があるのでこちらも重要です。

やすらぎ会では、日々の「勉強」研究の成果を発表する場として、事例研究発表会を創立当初から実施してきました。

今回で十回目ですが、毎回発表方法に工夫が見られています。例えば、ただ原稿を読



今回の参加チームは8チーム
述べ30人の「研究者」でした

福を呼べ、かたくりの園の豆まき



2009・節分
てづくりの鬼のお面～なぜか福を感じる？

「鬼は外、福は内」と大きい声が園内に響きわたります。今年の年男、丑年生まれの蛭坂泰雄さんが袴(かみしも)を身にまとい、かたくりの園での節分の豆まきが始まりました。

この日に向けて取り組んだ、手

「泰雄さん頼むぞ」の声に、泰雄さんは勇ましい面持ちで、鬼を払うぞと玄関へ向かいます。「鬼は外」中へ向かって「福は内」。

他の利用者さんからは、「こっちにまいて」「ほら、こっちにも福を呼んでちょうだい」と、歓声があちらこちらから聞こえてきます。園内は福を呼ぼうと一気に活気づいていました。

泰雄さんもみなさんの声に応えようと一生懸命まいていらつやいました。

豆をまき終わると、今度はその豆を拾い食べ始めます。

今はこの家でも落花生で豆まきをするが、



ほら、こっちにも、まいてける！



それ！福は内！歳の分全部食べれるか？

「鬼は外、福は内」と大きい声が園内に響きわたります。作りの鬼の面も壁に飾られています。

「泰雄さん頼むぞ」の声に、泰雄さんは勇ましい面持ちで、鬼を払うぞと玄関へ向かいます。「鬼は外」中へ向かって「福は内」。

他の利用者さんからは、「こっちにまいて」「ほら、こっちにも福を呼んでちょうだい」と、歓声があちらこちらから聞こえてきます。園内は福を呼ぼうと一気に活気づいていました。

泰雄さんもみなさんの声に応えようと一生懸命まいていらつやいました。

豆をまき終わると、今度はその豆を拾い食べ始めます。

今はこの家でも落花生で豆まきをするが、

昔は自分の家で採れた大豆を「ちやいれ」で煎って豆まきをしたそうです。まく人はその家の主人がまき、鬼を追い払ったところとです。全員そろえば福呼ぶといつて家族全員そろったところでもいたそうです。子供もいっぱい

いてにぎやかな豆まきだったそうです。まいた後は、家族みんな年の数だけ食べたもんだとなつかしみながら皆さん落花生をたべていらつやいました。「なんと、この年になって年の数食べるなど腹いっぱいになるべなあ」などと笑いながら今年の健康を祈り、節分行事は終わりました。

※ちやいれ＝現在のフライパンのような物(写真がなくてすみません)

介護職員 加藤美代子

特集(最終回) 「中堅よ理想を語れ」を終えて

広報委員会責任者 前島正人

これまでの三回は、私のアイデアで「地域の新たな支え合い」について中堅職員が集まって語り合う様子を伝えてきました。そして、理想自由奔放な語り合いを想定していましたが、残念なことにはその様には進みませんでした。これは、私からの説明不足が主な要因ですが、中堅職員との打ち合わせから感じた、あることも要因かもしれません。それは、やすらぎ会の中堅職員の「堅実さ」です。

組織の狭間で苦勞し、やすらぎ会を真ん中で支え、未来の発展の田おこしや種まきを担っている中堅職員に、苦しいまでの堅実の氣質があるのです。「理想を語れ」とは、自由奔放、ホラ吹き、大風呂敷で語り合うと考えていたのは私だけでした。中堅すなわち経験が豊富になると、お金、近所付き合い、行政の壁、慣わしなどが先に立ち「それはバランスを崩すから無理かなあ」で考えが止まるようになります。「走りながら考える」も困りますが、「やるにはどうすればよいか」のアイデアが出てこないのも困ります。



世代を混ぜ合わせて一つのモノをつくり、いっしょに達成感をつかむことが、新たな支え合いの原石です

まったそうです。目的は、まちづくりと笑いの普及で、回を重ねれば、実現するホラが出て地域に喜ばれるかもしれません。さらに、来年のNHK大河ドラマの坂本竜馬は、すぐに大風呂敷を広げるのが有名ですが、日本国を変えたのではないですか。福祉の仕事は、人の人生にかかわるのだから、夢や理想でなく対策や事業が核心ですか。また、理想を自由奔放に語れないのはなぜですか。その理由を考えると、皆さんと一緒に、大ホラを吹いたり、大風呂敷を広げたり、を先にしたほうが、うまくいくと直感するのは、私だけででしょうか。ご愛読ありがとうございます。

感染症予防はチームワークで 声をかけあうことが要です

特養生活相談員 高橋宏明



おう吐物などにウイルスが潜んでいるので、除去訓練です

ぶなの園では、二月中旬から三月初めに、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行しました。ノロウイルスとは、人のお腹の中で増える菌で、それがいたずらをして下痢や嘔吐になり、子どもや高齢者では、重症になる場合もあります。逆にはほとんど症状が見られない人もあります。

ぶなの園では初めてのことでしたが、最初の発症者が検査で陽性と診断された時点で北上保健所に報告し、早い段階で状況確認し、指導を受け対応することができました。このため二次感染を、職入居者は四名に止めましたが、職



ウイルスを退治するには、消毒液をすぐに拭き取ってはダメです!

員から八名出たことは、強く反省しています。また、見えないものに対応する難しさもありますが、ウイルスの生き残りをかけた生命力の強さに驚きました。

今回は三月六日で終息しましたが、この間、短期入所の休止など施設の入館規制を二週間ほど実施したために、皆様には、大変なご迷惑をおかけしました。誠に申し訳ございません。今回のことから、感染症状と二次感染をチームワークで最小限に抑えることの重要性を痛感しました。

あの場所、あの人、思い出せば 懐かしくもあるが、希でももある

はんばでめぐりひぎ
特養住民 高橋千代志



東京でかしゃだやつと酒っこ飲むめえだ (右から3番目が千代志さん)

「今は働くところもあり、ある程度安定したお金も入ってくると思うが、昔は働く場所も少なく生活するのに大変だった」と話す千代志さん。

昔の沢内は、山仕事や土方(土木作業)などがあつたが安定した収入が無く、家族を養う為に東京へ十年以上出稼したそうです。行く時は沢内の人達何人かで電車に乗り、東京駅まで行き、そこから分かれて「はんば」(小屋)へ行つて寝泊りしながら、朝から夕方まで汗水流して働いた。一番遠くと言えば、横浜まで行つて働いたとの事。



年1回の社員旅行の温泉が楽しみだったなあ (聞き取り 梶本明男(介護職員))

何故旅館ではなかったのか訪ねると、昔はお金も少なく旅館には泊まらなかった。それに「はんば」があつて、そこに泊まれたので一緒に働いた六人くらいで泊まったそうです。また、現場が変わるたびに「はんば」も変わり、荷物も多く移動も大変だったと苦勞話を聞く事ができました。休みの日は何をしていたのか聞くと、時々パチンコをしたと思つたが殆ど仲間と「はんば」で過ごしたとの事。仕事をしていた唯一の楽しみは、仕事が終わった後に「はんば」で仲間と酒を飲みながら、「めぐりひぎ」(花札)を毎晩遅くまでした事かな。「もし自分も丈夫で、一緒に働いた人達も元気であればもう一度集まり、酒を飲みながら「めぐりひぎ」をしながら昔話をしてみたい」ととても素敵な笑顔で話をしてくれました。

受け継がれる「沢内たんきり飴」 デイぶな利用者 佐藤ツナ (介護者 佐藤タダ子)



皇居奉仕団のツナさん (前列の左)

【この家庭にも「一口食べれば懐かしさがこみ上げる、心が温まる一品」がありますよね。そこで、そのような一品を通しての思い出話をタダ子さんが語ってくれました。

「ばあさんは、川舟に生まれ、二十歳の頃、じいさんと結婚した。じいさんは村会議員を務めていたが、ばあさんは家を守り、農業一筋に何でも細かく働いて、てどしやな人だつて。若い頃は、じいさんに連れられて旅行で各地を歩いているもんだつて。

六十歳を過ぎた頃からは、「たんきり飴」を親類の家で作っているのを見たり聞いたりして始めて、冬場に炭焼きをしながら頼まれると作つて、十数年はじいさんと一緒にやつていだけ。普通の水あめと違って大麦から作るなど手間がかかるが、コツコツと昔からの頑張りで作つてらつたんだべえ(経費も余計とかがらないように自分達でしねばねがった、とツナ



たんきり飴を作り始めた頃のツナさん (前列の左)

聞き取り 上中屋敷陽子 (生活相談員兼介護職員)

地域に対する責任をもって 勉強して参ります

総務課課長 大澤利幸



2008年9月21日創立10周年記念式典にて
(筆者は後列左から二番目)

えッもう十年。右も左も分らない福祉と言う職場、特別養護老人ホームにお世話になり十年が経過しました。入社当時から事務職と携わせていただいて、今も当時と変わらず事務員として業務を行っております。一般の民間企業からこの職場にお世話になった時は、自分なりに常識を持って仕事をし

ていたつもりでしたが、福祉の職場には新たな常識があり、そのギャップに慣れるのに苦労してききました。平成十二年に介護保険制度が創設され、民間企業も参入できるようになり、福祉の職場でありながら民間企業のように運営ではなく経営を考えていかなければならぬとなりました。その後、2回の制度改正が行われていますが、今で三回目の制度改正ですが、介護報酬がプラスに改正されるのは初めてです。この改正が経営にどれだけ好影響があるのか、ここ三年ほどは赤字決算をせざるを得ない厳しい経営でありましたが、制度改正を受けて健全な施設経営ができるのか勉強して参ります。又、制度改正が

人材確保を前提に改められたとすれば、福祉の職員離れを食い止める役目を果たして欲しいものです。今まで職員を募集しても、若干名の募集に若干名しか応募がなかったり、どの福祉施設もそうなのかもしれません。専門職となればなおさら大変で、職員募集しても誰からも応募がなかったり、職員の負担が大きくなり無理をさせている状況です。この制度改正が法人にも職員にとってもいいものであるように祈っています。こんな中、昨年末に西和賀町からぶなの園とたたくりの園の無償譲渡が議会で決定したわけですが、施設を建てた経緯を重く考えながら、その決断を受けて、今後の施設運営を行わなければなりません。これからも、社会福祉法人としての社会的地位と経営との狭間に立つて苦しい決断をしなければならぬ場合もあるかもしれません。地域とのつながりを大事にし、社会福祉法人であるという地域に対する責任をもって今後の経営に勤めていきたいと思っております。地域の皆様のご協力をお願いいたします。



施設長 高橋 一雄

「春を告げる、梅、桃、桜」
暦の上では春、と耳にしますが、私たちはいつ春を実感するのでしょうか？何によって、春の到来を感じているのでしょうか。
沢内はまだ春は遠いですが、南のほうから梅が咲いた、桜が咲いたとの便りが聞えて参ります。花の名前の梅や桜は、春の訪れのサイン。心地よい気分と結びついて参ります。

仙人が住むという「桃源郷」には、おいしい桃が鈴なりとの言い伝え。甘くてよい香りのする桃も、梅や桜に負けないほど「幸せ感」「心地よさ」「豊かさ」と結びつく植物だということでしょう。
桃の節句が終わると、桜の便りが聞かれ、次に春の到来を感じた虫が、外の世界に顔を出す意味の啓蟄が、生命が動き出す春がいよいよやって来たと告げます。
春を感じ、部屋にこもらず、日差しが一段と暖かくなった世界へ飛び出す日の間近さを感じるこのごろです。

うちのおばあさん おじいさんはえらい!

このページは子どもとおとしよりのいる風景をお伝えしています。今回は、川舟小学校五・六年生に絵日記で伝えてもらいました。
(前号の続き)



なまえ 石川 雅人
ぼくのおばあは、とてもえらいです。理由は、とても働きたまいます。きものだし、力持

ちだからです。丸太をかるがるともって、とんどん運ぶからです。



なまえ 石川 要笑
わたしのおばあちゃん、は早起きです。夏は五時には起き、ていとうな仕事をしてます。そのうち、わ朝飯の準備をします。育てたりを売たお金で、私に本を買ってくれます。



なまえ 石川 千太郎
私のおじいさんは、えらいです。かまかといくと、おと長い間

病気をしるるのに、顔を見ることが、こころにこころいって、やさしいおじいさんだからです。



なまえ 佐藤 真澄
僕のおじいちゃん、すっごいです。何がすっごいって、機械の運転です。雪は、はらいは、こに、雪をつげずに、雪をとりまします。とてもすっごいかなあ。



なまえ 吉田 雅昂
ぼくのおばあちゃん、すっごいです。何がすっごいって、それは、お手玉のこころです。

おばあちゃん、は、エロのように片手で、お手玉をやるのが、いつもすっごいなあ、と、思っています。

□特別養護老人ホーム
ぶなの園

□デイサービスセンター
ぶなの園

□ホームヘルプステーション
ぶなの園

□西和賀介護相談室

西和賀町沢内字太田2地割135番地

電話 0197-85-2322

FAX 0197-85-2317

Eメール

bunanosono@swc-yasuragikai.or.jp

□高齢者生活福祉センターかたくりの園

西和賀町沢内字大野17地割140番地1

電話 0197-85-3388

FAX 0197-85-3389

(発行・編集)

社会福祉法人やすらぎ会

広報委員会

平成20年12月～21年2月

【ご寄付】

- ・高橋 一雄様
- ・匿名様
- ・黒淵 昶様

【ご寄贈】

- ・猿橋小学校様
- ・高橋 郁子様
- ・黒淵 昶様

【ボランティア等】

- ・どれみの会様 (特養支援)
- ・長瀬野婦人会様 (ホーム喫茶)
- ・若畑婦人会様 (ホーム喫茶)
- ・高元睦子様 (デイ支援)
- ・佐々木エリ子様 (デイ支援)
- ・沢内民謡保存会様 (唄、踊り)
- ・おはなしきらきら様 (紙芝居等)
- ・ワークステーション湯田沢内様 (雪かき)
- ・沢内民舞同好会様 (踊り)
- ・趣味の会様 (踊り)
- ・高橋昭士・和子様 (唄、踊り)
- ・加藤節子様 (昔語り)
- ・深澤ノリ様 (デイ支援)

あたたかい善意を頂戴し
厚くお礼申しあげます

編集後記

いよいよ、今年度最終の広報誌の発行となりました。知っているようで知らない、おばあさんおじいさんのこと、子どもの目線、ぶなの園の中の様子、など、すぐそばなのに新しい発見に感じていただけるような内容を目指したつもりでいました。皆さんの「気づき」を刺激したことになるれば幸いです。有難うございました。 前島正人

やすらぎ会 季節の風景



かたくりの園では二月七日と八日の二日間、「西和賀町雪あかり」に参加しました。いつもより雪が少なく、除雪車で寄せ集められた雪を利用して作りましたが、集められた雪はほとんど氷だったので大変苦労しました。その完成した作品がこの写真です。